

DEREK PRINCE MINISTRIES INTERNATIONAL

ディボーション

父のみこころを行う



日 1970/365
Declaring God's Word
著者 デレク・プリンス

エペソ人への手紙１章５節で、パウロはすべての信者についてこう言っています。「神は…私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられました。」パウロはさらに、ローマ人への手紙８章２９節で、ご自分の子たちのための目的を説明しています。

> 「神は、あらかじめ知っている人たちを、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたのです。それは、多くの兄弟たちの中で御子が長子となるためです。」

このように、イエスは、私たちが成熟するために倣うべき模範となるお方、子の姿です。イエスご自身こそ、私たちが成熟を目指して進み、聖所に入って神に近づくための新しい生ける道です（ヘブル６：１、１０：１９－２２）。イエスを完成へと導いた道は、私たち一人ひとりが従って行くべき道なのです。

成熟への道のりは、イエスのほうが私たちよりも容易だったわけではありません。イエスは、「罪は犯しませんでしたが、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれた」（ヘブル４：１５）のです。人間としての性質を持ったイエスは、私たちが経験するすべての誘惑を経験しましたが、決して罪は犯しませんでした。誘惑されることは罪ではありません。罪は、私たちが誘惑に負けてしまった時に初めてやって来るのです。

人間であったにもかかわらず、イエスがあらゆる誘惑に打ち勝つことができたのはなぜでしょうか。それは、父のみこころを行うというひたむきで変わることのない動機にありました。この事実は、詩篇４０篇７～８節でダビデが預言的に示しています。

> 「そのとき　私は申し上げました。『今　私はここに来ております。巻物の書に私のことが書いてあります。わが神よ　私は　あなたのみこころを行うことを喜びとします。』」

イエスは地上でのミニストリーの間、ご自分がなさったすべてのことに、この根底にあった動機を繰り返し明らかにしました。父から与えられたすべての務めを成し遂げるまで、最終的な満足感を得ることはできませんでした。ヤコブの井戸のそばで、イエスは弟子たちにこう言いました。

> 「わたしの食べ物とは、わたしを遣わされた方のみこころを行い、そのわざを成し遂げることです」（ヨハネ４：３４）。

© 2008 - デレク・プリンス・ミニストリーズ・インターナショナル・インク

（ヨハネ５：３０、６：３８も参照。）



© 2008 - デレク・プリンス・ミニストリーズ・インターナショナル・インク